

図書館通信

市貝町立図書館

〒321-3423

栃木県芳賀郡市貝町市塙147

Tel 0285-68-4380

URL <https://www.library.ichikai.tochigi.jp/>



ホーム
ページは
こちら



ホームページでも図書館通信を見ることができます

3月のイベント

感染症対策のためサービスを制限しています。サービスの変更・再開・イベントを中止する場合はホームページやtwitterで随時お知らせします。

★しょうちゃんと遊びま専科

「CDごまを作って遊ぼう！」

日時：3月4日（土）14:00～

場所：2階 企画研修室

内容：当館顧問「しょうちゃん」と工作やゲームを楽しみます。

定員：5組

対象：幼児～小学生

※小3までは保護者同伴

受付期間：2月5日（日）から受付しています

※定員になり次第終了

申込方法：カウンターまたはお電話

お問い合わせ：市貝図書館 ☎68-4380

★歴史民俗資料館のイベント

第49回企画展「いちかいの埋蔵文化財」

期間：3月19日（日）まで ※休館日は図書館に同じ

内容：資料館所蔵の考古学遺物を展示します。古代の市貝町はどのような様子だったのか知ることができます。

お問い合わせ：中央公民館 ☎68-0020

ツイッターでも
情報配信中！

市貝町立図書館

『いっとくん』

@ittokun_ichikai



★開館時間 9:30～19:00★



★いっと紙幣がはじまります★

4月から市貝図書館で行うイベントに参加すると「いっと紙幣」がもらえます。

5枚・10枚・15枚・20枚・50枚・100枚で景品と交換できます。

最初から100枚を狙うのもあり！集め方は自由です。イベントと一緒に、ぜひチャレンジしてみてください。

また、今までの「イベントカード」は3月末で終了します。スタンプ1個につき1枚のいっと紙幣と交換します。（交換は4月以降となります）



★洋式トイレの
リフォームを行いました★

利用者アンケートでご要望をいただいていた、洋式トイレを全て暖房便座にリフォームしました。

図書館カレンダー

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31※	

…休館日

※月末資料整理日

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

本屋大賞はどの作品？

4月12日（水）に2023年本屋大賞が発表されます。1階・受賞作コーナーに本屋大賞ノミネート作を集めていますので、ぜひ読んでみてください。

- 「川のほとりに立つ者は」
寺地 はるな // 著（双葉社）
- 「君のクイズ」※
小川 哲 // 著（朝日新聞出版）
- 「宙ごはん」
町田 そのこ // 著（小学館）
- 「月の立つ林で」
青山 美智子 // 著（ポプラ社）
- 「汝、星のごとく」
凧良 ゆう // 著（講談社）

- 「方舟」※
夕木 春央 // 著（講談社）
- 「#真相をお話しします」
結城 真一郎 // 著（新潮社）
- 「爆弾」
呉 勝浩 // 著（講談社）
- 「光のところにいてね」
一穂 ミチ // 著（文藝春秋）
- 「ラブカは静かに弓を持つ」
安壇 美緒 // 著（集英社）



※購入準備中（2月16日現在）

今月のスタッフおすすめ本 「出会いの本」

「転職の魔王様」

額賀 滯 // 著（PHP研究所）

リクルートスーツの人が多く目に入る季節になってきました。今では大学3年生の春にもなれば就職活動準備をスタートする人も少なくないようです。生涯の半分以上の時間は何かしらの仕事をしている？そうともなれば、最初の仕事選びは気合が入る事でしょう。仕事は楽しい事ばかりではないのが現実、主人公の千晴は、会社に3年間在籍したが体調不良のため退職した。叔母が経営する転職エージェントで優秀なキャリアアドバイザーの魔王様と呼ばれる来栖に出会う。クライアント側から、コンサルタント側になり、来栖のもとで葛藤しながら、千晴自身も転職希望者のサポートをしていくうちにやりたいことをみつけ前向きに進んでいく。人材紹介会社側からの視点も楽しめます。仕事に行き詰った時、舵を変えて新しい出会いをもとめるのもあなた次第…。

（スタッフ：ニーチェ）

「旅ごはん」

小川 糸 // 著（白泉社）

旅先での楽しみの一つが食事です。郷土料理はもちろんのこと、普段なじみのない料理に出会うことがたくさんあります。

本書にもそんな料理が登場します。ピンク色のスープ、アーティチョークのオムレツ、砂糖漬けの松ぼっくり等、味を想像するのが難しい！でもちょっと食べてみたくなりました。

必ずしも美味しい料理ばかりではないだろうけれど、その味とともに浮かんでくる情景は、忘れられないものだと思います。出会いを求めて旅をしたくなってしまいました。

著者が、海外や日本国内を旅する中で食べた様々な料理。その土地で出会った人々との思い出を、美味しく、ときにはほろ苦く綴ったエッセイ集です。

（スタッフ：はりねずみ）



「やけにきれいな夜景だね」「秘書がヒシヨヒシヨ話している」こんなことを言うと若い人には「さむっ、おやじギャグ」と、言われてしまいそうです。しかし、ダジャレは言葉の教養だと私は思っています。時々、職場や同級生の集まりなどで何気なく使ってしまいます。「老婆は一日にしてならず（ローマは一日にして成らず）」「四十にしてマドモアゼル（40にして惑わず）」。あるところでの講話の時間に「老婆は一日にしてならず」というダジャレをユーモアを交えての話をしてみたのですが、ほとんど反応がありませんでした。元々持っている言葉が乏しいからなのかもしれませんが…。ダジャレはコミュニケーションになるという人もいます。もっとも、今の若い人はあまり個人的なことを話すのを嫌がる傾向にあります。先日、外資系企業の雑誌広告でこんなキャッチコピーを目にしました。「幸せは、シワと汗でできている」「シワあせ＝しあわせ」と、ね。素敵なダジャレです。私も年齢のせいシワが増えてきました。額に汗して働いていると、あゝしあわせと感ずります。ほんの一言でこんな幸せな気分にしてくれるダジャレ。たとえば、おやじギャグと言われても私なりに守っていかうかと思っています。

